読書のすゝめ

その5　H30　4／16

新任の先生紹介⑤

坂本真美　教頭

『潮騒』三島　由紀夫

現代ではかえって「おとぎ話」のような初恋を描いてしかもハッピーエンドという，三島由紀夫に「裏切られたなぁ」とつくづく思った作品です。高校時代の皆さんにはこの「新治」君と「初江」さんの恋愛をどう受け止めるでしょうか。「純愛」と評されることも多いのですが，いえいえ，ちゃんとそれぞれの「たくらみ」が有り，「かけひき」があります。「新治」君に片思いしている「千代子」さんの思いや，緊張感のある焚き火のシーン，沖縄の荒天の中，命がけで仕事を全うしそれが自分の力だと誇るラストシーン。美しい沖縄の海を日本に取り戻す時代の予感を感じさせて小説は終わります。私の好みはもっと意地悪な方の三島の小説なのですが，こんな「恋愛」もあるのだと，皆さんの恋愛カテゴリーに増やして欲しいと思い薦めます。それと私事ですが趣味は「潜り」なもので，主人公のお母さんが語る海の中の様子に共感するという楽しみもあるのです。

石井伸一　教頭

『街道をゆく』全四十三巻　司馬遼太郎　朝日新聞出版

国内は北海道から沖縄まで、そしてアイルランド・オランダ・アメリカ・モンゴル・中国・韓国・台湾などの世界各国も訪問し、日本民族と文化の源流を探り、その地の歴史・地理・人物に焦点をあて、表題のとおり、街道・みちに見地を傾けることで、交通の視点から歴史・風土を考察する紀行文です。現代に生きる我々のルーツを知るひとつの史料として貴重な存在だと思います。

『坂の上の雲』　司馬遼太郎　文藝春秋・文春文庫

明治維新を経て新国家に生まれ変わった日本が、欧米列強にさかんに学びながら近代国家としての体制を整えてゆき、日清戦争など幾多の困難を乗り越えて、日露戦争においてロシア帝国を破るまでを描いています。現代から見ればこの明治時代の政治体制は、帝国主義であり肯定されるものではありませんが、明治政府の脆弱性を知る資料として見た場合にたいへん理解しやすい本であると思います。

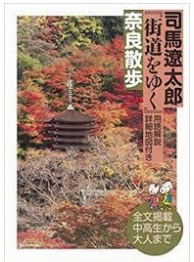
国際化が進展する現代社会を生きる我々は、否が応でも海外の方たちと交流する機会は必然となり、日本の歴史や風土をどのように紹介するかはたいへんなことです。その際、今回、紹介した二つの書籍は大いに役立つことでしょう。

根本真理先生（事務室・主任）

『屋上のウインドノーツ』額賀澪（小学館）

行方市出身の作家さんということで親近感がわき、何気なく手にとった本です。行方一高吹奏楽部を舞台に、二人の主人公が悩みを抱えながらもすこしずつ成長していく姿が描かれています。何かに夢中になることの素晴らしさをかんじさせられました。

新学年になり、期待と不安でいっぱいの高校生の皆さんに是非読んでもらいたい本です。



図書館オリエンテーション

NDCを知ってたくさんの本と出会えますように！

本の購入リクエスト受付中！